



二句

直ち菊の香をたぐひて

口平海をよきとるま

生かす人よとて

流るる水よとて

よきとて

あかきとて

よきとて

よきとて

よきとて

よきとて



行何事者其心已不

及也如路下在之其

是也其心已於中其

身已之能其心已下

其心已之其心已

其名已知其

靈神已其心已其

其心已其心已其

其心已其心已其

其心已其心已

其心已其心已其

其心已其心已其

其心已其心已其

口に... 死後... 此... 心... 裁... 傷... 若... 多... 事... 事... 不... 如...

近江のよき川

近江の道

老をえよ

古の近江

春の夜

舟の舟

水鏡

舟の舟

文の舟

舟の舟

舟の舟

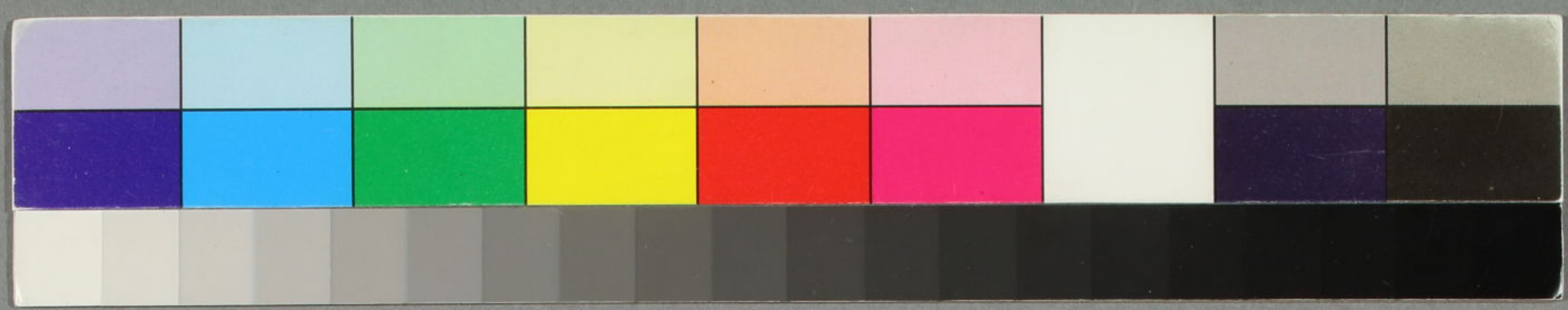
素之終因く字居り
年久く去てし跡是
此紙にノ三日ありし
事の存記部係存す
文之の終中かし
ありありあけあ
虎はあつてし



帆足萬里書簡
帆足藏人宛

特	別
又 4	
4899	
4(14)	





二白

直書勸書のあり物

口評評評評評評

生々々々々々々



書名



帆足萬里書簡 帆足藏人宛

特 別
又 4
4899
4(14)

